

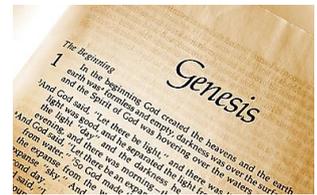


## 「神様からの貴重な贈り物」

キリスト教センター ミカエル 加藤俊彦

聖書の冒頭、創世記1章27節に「神は御自分にかたどって人を創造された。」と書かれています。ここには、聖書の間観が表されています。それは、神様が人間にのみ「意思」を与え、人間はその貴重な贈り物を用いて自由に選択して生きていくことができるというものです。「人生は選択の連続だ」と言われるように、生きるということは、自らの意思をもって選ぶというものの連続です。例えば、大学へ進むか就職するか、どこの大学へ行くか、どの学部で学ぶか、今日は大学へ行くか休むか、などなど、その場その場で様々な選択肢がある中から、自らの意思をもって選んできた結果、今があります。この先も、どのような仕事をするか、就職先をどこにするか、結婚するかしないか、転職するかしないか、などなど、人生において選ぶことに尽きることはありません。そこで大切なことは、確かに選び取って生きているという自覚なのだと思えます。そこから、自らの人生に対する主体性や責任が生まれてくるのだと思えます。

人生はよく、真っ白な何も書かれていないキャンバスに自分で絵を描いていくことに例えられます。絵を描くためには、どのような絵を描こうか、どこに何を描こうか、何色で描こうか、何を使って描こうかと、色々と考えなくてはなりません。そこには意思が必要です。この題材を、この色で、これを使って、このように描こうという意思がなければ絵が描けないように、人生もその人生を生きていく当事者に、はっきりとした選び取る意思がなければ、有意義な人生を描くことは難しいと思えます。意思を与えた神様が、何よりも人間に望んでいる生き方は、選ぶという意思をはっきりと持って生きていって欲しいというものです。



創世記3章に出てくる「蛇の誘惑」の物語にも人間観が表されています。蛇は悪魔です。選ぶという時には、どちらを選ぶことが成功へと至る道なのか、どれを選ぶことが正解なのか分らずに、迷うことがしばしばあります。その際、神様に祈るといことが大切です。どれを選べば神様の思いにかなうかを聴いて尋ねるといことです。自分の意志のみで選択すると、悪魔の誘惑に負けてよからぬ方を選んでしまうことがあります。悪魔の働きは、人間に対して巧妙に誘いをかけることです。「神様なんていないんですよ。」「あなたが神様なんですよ。」「だからあなたが望むようにしていいんですよ。」「自由に好きな方を選んでいいんですよ」と。この誘惑に乗ると、人間本来の生き方である、一緒に生きる、ということが出来なくなります。神様に祈り尋ねたからと言って、神様が声をかけて答えを教える訳ではありませんが、迷いの中で立ち止まっている状況にありながら、信じて動けるということが起こりえると思えます。

最後に、選んだ道が失敗だったと思う結果になることもあります。「こちらを選んだけれども間違っていた」「あの時あちらを選んでおけば良かった」「祈ったけれども聴き間違えた」といことは、人生においてたびたびあります。人生、順風満帆に進むことなどあり得ません。失敗や後悔や聴き間違いは誰でもが経験する当たり前の、ごく普通のことです。むしろ、選んだという自覚があったからこそ、そのような判断や後悔に繋がります。たとえ、選択の結果が間違ったり、失敗したりしたとしても、もう一度選び直し、聴き直し、軌道修正すればよいのだと思えます。

後戻りの出来ない、一回きりの人生を、神様からいただいた意思を存分に使って、神様にお伺いをたてつつ、迷って、選んで、失敗して、を繰り返しながら歩んで行くのが人生なのではないかと、60年以上生きてきた今、感じます。

